

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-110	実施計画番号	139	事業開始年度	平成17年度
事務事業名	エコツアーリズムの推進			事業終了年度	
担当課名	観光推進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	エコツアープログラム対応のガイドの育成や増員の為の支援を行い、観光客の需要に応えたツアーを継続的に実施する。				
事務事業の目的	環境保全を図りながら、観光資源の魅力を活用して、エコツアープログラムの充実を図る。				
実施状況	奥入瀬渓流利用適正化協議会、奥入瀬渓流エコツアーリズムプロジェクト実行委員会への参画により、奥入瀬渓流エコロードフェスタを開催。イベント内でエコツアー等を実施している				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		500	500	1,500

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		協議会開催数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			回	3	3	3	
	活動指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
成果指標	成果指標名①		エコツアー参加者				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	600	600	600
				実績値	610	370	
				達成度(%)	102%	62%	
	成果指標名②		認定ガイド数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	30.0	30.0	30.0
			実績値	22	27.0		
			達成度(%)	73%	90%		

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	存在意義の見直しの余地   0 / 4
	②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2		
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B 1	4	成果向上の余地   2 / 6
	④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B 1		自然観光資源に恵まれた当市ではこれを活用した観光ガイドの需要は今後も必要であると予想されるが、ガイド団体の活動の基となる人材、財政面の部分で十分な環境であると言えずガイド数が伸び悩む一つの要因となっている。
	⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2		
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	6	コスト削減の余地   0 / 6
	⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2		
	⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2		
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A 2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4
	⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2		
			現在の適性	18 / 20	改善の余地   2 / 20	

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

**有効性を改善して継続**

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

青楓バイパス開通後の奥入瀬溪流の在り方など模索する中で、自然観光資源としての魅力を活用するエコツアープログラムは、今後も需要が高まると考えられる。この取り組みを継続させるためにも観光ガイドの人数増加や育成を同時に行いながら、適正な料金を得るなどガイド団体の基盤を固める方向へ導かなければならない。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

市が担うガイド団体ネットワークの事務局を通じて、ガイド団体の研修や情報交換の場を設けるなどの側面的な支援を続けることで、エコツアープログラムの提供やガイド育成を行えるような環境の整備に結びつける。